

行政機構整備實施ノ爲ニスル朝鮮總督府官制
中改正ノ件外六件審査報告

昭和十八年十一月十九日

委員長 窪田顧問官

委員 清水顧問官

堀顧問官

三土顧問官

南(弘)顧問官

二上顧問官

泉二顧問官

管等ヲ國ヲ行政進行ノ態勢ヲ整フル爲
ニ總督府及地方廳ノ機構ヲ整理統合簡素化ス
ルノ外地方廳ノ充實ヲ圖ルコトナセリ即チ朝
鮮ニ於テハ總督府管内ノ總務司政廳產農林鐵
道及專賣等六局ヲ廢止シテ新ニ鐵道農商及交
通ノ三局ヲ設テ鐵工局ニ於テハ軍需生産關係
事務ヲ兼務スルニ於テハ倉庫ノ整理ヲ中心トス
ル國民生活關係事務ヲ交通局ニ於テハ陸運海
運航空等ノ關係スル事務ヲ夫々專管スルニシテ
トト爲スルニ於テハ地方ニ於テハ稅務監督局ヲ廢

止シテ稅務署ヲ道廳ノ所屬トシ其ノ他土木出
張所管林署等ヲ道廳ニ移管スルコトトシ又臺
灣ニ於テハ總督府ノ總務國土殖産及倉庫ノ四
局ヲ廢止シテ新ニ鐵工及農商ノ二局ヲ設テ鐵
工局ニ於テハ軍需生産關係事務ヲ農商局ニ於
テハ倉庫ノ確保増産ニ關スル事務ヲ夫々專管
スルニシテトト爲スルノ外海陸輸送ノ一元的運
輸ヲ圖ルニ爲シ基隆及高雄ノ兩港ニ稅關及州港
稅關等ヲ設合セシテ稅務局ヲ設置シ其ノ他總督

一、為前記ノ外仍テ茲ニ本件ノ諸件ヲ立案シ
本院ノ御裁ニ付セラレタルニシテ其ノ要
旨ヲ説明スルハ次ノ如シ

第一、行政機構整備實施ノ為ニスル朝鮮總督
府官制中改正ノ件

本件ハ前記ノ趣旨ニ依リハ朝鮮總督府内ノ
總務司政理廳及農林ノ四局ヲ廢止シテ新ニ
鐵工及農商ノ二局ヲ設ケ在來ノ八局ヲ六局
トシ前記四局ノ分掌事務ハ主トシテ之ヲ總
督官房及新設ノ二局ニ分屬セシムルコトト

之(第九)從前同府ノ外局タリシ專賣局ヲ廢止

シテ(新)其ノ所掌事務ヲ財務局ニ移管シ

(二)職員ノ縮減ヲ圖ルト共ニ專賣局職員ノ移

替ヲ為ス為同府ノ職員定員ヲ増減シ(其)

ノ他少許ノ改正ヲ為サントス(第十一條ハ六

第十條及第七條二十五條)ルモノナリ

第二、朝鮮總督府中樞院官制中改正ノ件

本件ハ前記ノ朝鮮總督府ノ機構改革ニ伴フ

モノニシテ從前中樞院書記官長ハ同府ノ局

長ヲシテ之ヲ兼ネシメタルヲ今回廣ク勅任

官ヲシテ兼ネシムルコトニ改メントスルモノナリ

第三 行政機構整備實施ノ爲ニスル朝鮮總督

府交通局官制制定ノ件

本件ハ前記ノ趣旨ヲ以テ新設セラルベキ朝鮮總督府交通局ノ組織權限ヲ定ムルモノニシテ其ノ要旨ハ(一)朝鮮總督府交通局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ國有鐵道、國營自動車及其ノ附帶事業ニ關スル事務、私設鐵道、軌道、自動車交通事業、小運送業等ノ陸運ニ關スル事務、

船舶造船、船員航路標識等ノ水運ニ關スル事務並ニ港灣、倉庫營業及航空ニ關スル事務等ヲ掌ルモノトシ(第一)(二)地方ニ京城、釜山、咸興ノ各地方交通局ヲ置キ交通局ノ事務ヲ分掌スルノ外稅關行政ニ屬スル關稅、保稅倉庫、外國爲替管理法ノ施行、輸移出入植物ノ検査、海港檢疫等ノ事務ヲ掌ルモノトシ其ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ムルコトトシ(第二)(三)交通局ニ勅任ノ局長及理事、奏任ノ書記、官事務官、航空官、技師及標識技師、判任ノ書記、

技手及標識技手並ニ判任待遇ノ交通手ヲ置
キ局長以下ノ職員ノ職務權限ヲ定メ(第三條)
術(二)地方交通局ニ理事ヲ以テ充ツル地方
交通局長ヲ置クコトトシ其ノ職務權限ヲ定
メ(第四條)其ノ他交通局又ハ地方交通局ノ出張
所、航路標識及交通従事員養成所ニ關スル事
項ヲ定メ(第五條)至(五)朝鮮總督府鐵道局
官制及朝鮮總督府稅關官制ハ之ヲ廢止スル
旨(第六條)ヲ定ムルニ在リ

第四 行政機構整備實施ノ爲ニスル臺灣總督

府官制中改正ノ件

本件ハ前記ノ趣旨ニ依リ(一)臺灣總督府ニ於
ケル總務、國土、殖産及食糧ノ四局ヲ廢シテ新
ニ鑛工及農商ノ二局ヲ設ケ在來ノ七局ニ部
ヲ五局ニ部トシ前記四局ノ分掌事務ハ概ネ
之ヲ總督官房及新設ノ二局ニ分屬セシムル
コトトシ(第七條)從來殖産局ニ置カレタル
山林事務所ハ之ヲ地方廳ニ移シ(第八條)及
三(九)農商局ニ食糧部等ヲ置キ食糧ノ配給及
消費ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトトシ(第十條)

又ハ官等ノ初級階級ノ規定ヲ適用セリ
ル文官ニ關スル件中改正ノ件
前記ノ如ク朝鮮總督府工務官臺灣總督府工
務官及臺灣總督府港務局海務官ハ特別任用
規程ノ適用ヲ受ケルモノナル故ニ實際ニ
其ノ任用ニ支障ナカラシムル爲メハ高等官
官等俸給令第四條所定ノ初級官等ニ關スル
制限ヲ受ケザルモノト爲スノ必要アリ仍テ
茲ニ本案ヲ以テ本件ノ現行勅令第二條ニ改
正ヲ加ヘ前記規定ノ適用ヲ除外セル諸官中

ニ右ノ諸官ヲ加ヘ此等ノ諸官モ亦初級官等
ニ關スル法定ノ制限ヲ受ケザルモノト爲サ
ントス

按ズルニ本案ノ諸件ハ曩ニ國政ノ運轉ヲ刷新
シ國內諸般ノ態勢ヲ強化セシムガ爲内地ノ中央
地方ニ於テ實施セラレタル所ニ倣ヒ朝鮮總督
府及臺灣總督府ニ於テモ機構ノ整備ヲ爲スコ
トトシ之ガ爲必要ナル官規ヲ制定改廢セント
スルモノニシテ其ノ趣旨ニ於テ敢テ不可ナク
其ノ條項ニ付テモ別ニ支障ノ慮ナキモノト認

ム仍テ審査委員會ニ於テハ本案ノ七件ハ孰レモ此ノ儘可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十八年十一月十九日

審査委員長

樞密顧問官 窪田静太郎

審査委員

樞密顧問官 清水 澄

樞密顧問官 南 弘

樞密顧問官 潮 惠之輔
樞密顧問官 二上 兵治
樞密顧問官 三土 忠造
樞密顧問官 泉二 新熊

樞密院議長 原 嘉道 殿

